

V 被災地域の記録

1 新聞報道の主な記録

掲載月日	機関名	記事表題
平成30年 2月7日	北海道新聞	静内で積雪最多43センチ 管内事故多発、休校も 除雪追いつかず 道内太平洋側で大雪 日高管内 ハウス378棟倒壊 ハウス損壊451棟に 日高大雪 農家ら落胆
2月8日	北海道新聞	大雪被害 農家回り確認 新ひだか・新冠 ハウス損壊497棟に 日高大雪ハウス損壊497棟 農家「どうしたら」
	日本農業新聞	ハウス300棟倒壊 強い寒気大雪で日高地方 日高管内 JA被害調査急ぐ 2日続け水分も多く
2月10日	日本農業新聞	北海道日高地方ハウス雪害拡大 就農したて「悔しい」
2月14日		<ul style="list-style-type: none"> ・大雪の農業被害甚大 6道県 ハウス全半壊1300棟超 ・雪害見えぬ全貌 ハウス倒壊各地で続々 ・道県JAグループ 農業復旧へ本腰
	北海道新聞	ハウス倒壊 遠い復旧 新ひだか、新冠で大雪被害13億円 人海戦術で除雪
2月17日		大雪被害の2町「最善の支援を」 高橋知事が視察

2 被害対策本部の設置

- (1) 日高振興局大雪による農業被害対策連絡本部
2月8日設置
- (2) 新ひだか町大雪農業被害対策本部
2月8日設置
2月9日、3月15日、3月27日の3回幹事会を開催
- (3) 新冠町大雪災害対策本部
2月15日設置

3 ボランティア活動・援農

災害直後から各農協・町は除雪及び被災施設の撤去作業の支援を開始し、復旧へ向けた取り組みを長期間にわたり推進している。支援作業には除雪・損壊資材の撤去・新たな施設の設置等があるが、ここでの集計は、災害直後の除雪及び撤去のために行われたボランティア活動について、各町の災害対策本部への報告及び普及センターが聞き取りを行った範囲で記載する。

(1) ボランティア活動による復旧支援

対象地域	期間	参加(実施)機関	主な作業	延べ人数
新冠町	2月13日～ 3月28日 (13日間)	新冠町建設協会・新冠町農協職員・生産部会員(農業者)・JA関連機関及び取引業者・新冠町職員	除雪及び パイプハウスの撤去	375人
新ひだか町	2月22日～24日	曹友会		184人
	3月17～19日 3月24日	新ひだか町社会福祉協議会(事務局)		294人

(2) 2月13日～16日に北海道農政部、日高振興局は除雪及び倒壊資材の撤去作業に援農を行い、延べ208名が参加した。

4 知事・道議会農政委員会による現地調査

(1) 2月16日 高橋知事 日高管内における大雪被害状況調査
(情勢報告、現地訪問))

11:50～12:20 情勢報告(新ひだか町役場内)
12:45～13:20 新ひだか町2ヶ所の現地訪問



写真1 現地訪問(新ひだか町)

(2) 2月23日 北海道議会農政委員会による大雪による農業被害現地調査
(現地調査、意見交換会)

13:00～14:00 新冠町、新ひだか町各1戸の現地調査
14:15～15:00 意見交換会(新ひだか町役場内)



写真2 現地調査(新冠町)



写真3 現地調査(新ひだか町)

雪下ろしや除雪作業時の事故に十分注意しましょう

平成 30 年 2 月 8 日
日高農業改良普及センター

雪下ろしや除雪作業に追われていることと思います。
作業時の事故を防ぐため、以下の点に注意しましょう。

- 除雪作業中は、子供や他の作業者、車両等に十分注意しましょう。
- 除雪作業はできるだけ2人以上で行いましょう。
- 特に、屋根など高所の除雪作業を行う場合は、必ず2人以上で行いましょう。またヘルメットや命綱など安全策を講じましょう。
- 軒下などを除雪するときは、屋根からの落雪に注意しましょう。
- ハウスのビニールが雪の重みでたわんでいるときは、破れの発生や裂け目が広がり、雪の下敷きになることがあるので、下から棒などで突かないこと。

29 営農技術対策(号外13)

雪害に対応する営農技術対策

平成30年 2月14日

北海道農政部

2月4日からの大雪と暴風雪により、雪害を受けた施設の復旧や栽培上の留意点に加え、今後も懸念される大雪被害を最小限にとどめるための対策を示したものです。

引き続き随時発表される気象情報に十分注意し、対応に努めてください。

札幌管区气象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

第1 大雪と暴風雪による被災ハウスへの対応

- 1 暴風雪、大雪で被災したハウスは、速やかに支柱等を点検し修復に努める。
その際、曲がった支柱については強度が低下していることから、応急処置を除き使用は避ける。
- 2 ビニールが破損した場合、育苗中の苗はトンネル保温等により、低温障害の回避に努める。
破損していない育苗ハウスがある場合、移動可能な苗は、臨時的に移動して保温に努める。
- 3 施設各部の損傷・ゆるみなどの状態を総点検し、必要に応じて速やかに補修する。またハウス周辺の堆積雪は除雪する。
- 4 融雪によってハウス内に融雪水が浸透し、地温低下や育苗ハウスが過湿条件となり、苗の徒長や病害の発生、生育不良の恐れがある。すでに融雪水が浸水している場合は排水に努め、ハウスサイドの除雪、ビニール被覆を行い、融雪水の浸透防止を図る。
- 5 育苗中の苗が、低温障害による影響の程度が大きいと予想される場合は、新規育苗、作型変更等を検討する。

第2 今後の大雪と暴風雪への準備・対策

- 1 暴風雪、大雪時の応急補強用支柱・筋かいなどを、予め利用しやすい場所に整頓保管する。
雪に関する気象情報が出された時は、直ちにそれらの資材で補強する。
- 2 ハウス周辺の堆積雪は、屋根からの落雪を妨げ、施設の側壁に圧力を加えることとなるので、速やかに除雪する。
- 3 ハウスの気密性を高めるとともに、加温施設がある場合は可能な範囲で室温を高め、二重ハウスの場合は 日中内張を開放し、外張り天張面を温め落雪を促す。
- 4 ハウス内に栽培作物がある場合は、採光性を確保し適温管理に努める。

雪害に対する営農技術情報

平成30年2月14日

日高農業改良普及センター

2月5日から6日にかけての大雪による被害を受けた農業施設では、復旧作業が行われていますが、作業は安全を確認して行いましょう。また、発表される気象情報等に注意し、被害の拡大防止に努めましょう。

狭い場所での作業に注意

除雪作業はハウス間の通路や倒壊した鉄骨資材の間等の狭い場所での作業が多くなります。作業者同士の間隔や破損した資材との接触に注意しましょう。

資材の再利用は慎重に

パイプ本体や関連資材は破損により強度が著しく低下している場合もあります。

再度利用する場合は損傷程度を確認し、不十分なものは必ず撤去しましょう。

施設の再確認

被災していないハウスも風雪により影響を受けている場合もあるので、ゆるみや破損が無いか確認しましょう。

既に育苗等で栽培中のハウスは、温度不足による障害を受けないよう保温資材を有効に使いながら、日中は掛外しを行い受光率が上がる環境を作りましょう。

融雪水の早期排除

今後、融雪が進むとハウス内部や周囲に融雪水が停滞する心配があります。ハウス周辺についても除雪を行い、水が抜けにくい場所は排水路を確保しましょう。

復旧が急がれますが、事故を防ぐためにも定期的に休憩時間を作り、作業を行いましょう。